

1. 科目名（単位数）	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）（1単位）	3. 科目番号	PSMP6286
2. 授業担当教員	大島 朗生、新井 雅人、未定（野口 理英子）		
4. 授業形態	実習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態（通信教育）	
7. 講義概要	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）では、大学附属臨床心理相談室で行う心理実習における、事前指導、インテーク面接陪席、心理面接陪席、ケース担当、事後指導などを行う。必要に応じて、医療機関などにおける学外実習での学びも振り返りながら、臨床心実践の実際を体験的に学ぶ。 各学生は、大学附属臨床心理相談室にてスーパーヴィジョンを受けながらケースを担当する。また、インテーク面接陪席や心理面接陪席の記録と報告、担当ケースの記録、心理検査の実施と報告書の作成、ケースカンファレンスにおける発表などを行う。 学外実習においては、医療・保健領域や福祉領域などにおける実習施設にて、心理臨床の技能や態度、倫理や連携を学ぶ。事前指導としてのガイダンス、学外実習施設における見学、陪席、一部参加、補助的担当、実習報告書提出なども行う。		
8. 学習目標	心理面接の実践を通して、実際場面で起こる心理援助のさまざまな側面について対処力を身につける。 学内実習では、スーパーヴィジョンを受けながらケースを担当し、ケース報告をまとめ、ケースカンファレンスで発表することにより、心理臨床援助における実践能力の向上を図る。 また、心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を図る。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	ケースを担当する前後に、ケースに関連した文献を検索し、読んでおくこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】特になし 【参考書】日本心理臨床学会の心理臨床学研究，日本カウンセリング学会のカウンセリング研究などの学会誌の事例論文をよく読むこと		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 心理実習において、担当ケースのスーパーヴィジョンを受けながら、ケースを担当した。 2. 1の担当ケースについてケース報告をまとめ、ケースカンファレンスにて発表を行った。 3. 自身が発表者ではない回のケースカンファレンスにおいても、十分な取り組みが見られた。 4. 学外実習において、十分な取り組みが見られた。 5. 学習目標の達成がなされた。 ○評定の方法 実習報告等 30%、ケース担当とカンファレンスでの実績状況 40%、授業への参加態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. ケースを担当する中で、心理臨床における実践的な能力を身につけることを目指す。実習においては、実際にクライアントを担当し、支援を行う。気を引き締めて真摯に取り組むことが求められる。 2. これまでの人間関係や社会生活を活かしながらも、それに固執せず、心理臨床の専門性を謙虚に学ぶ姿勢を大切に、それぞれの活動に取り組むこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。やむを得ず欠席、遅刻、早退をする場合は、その理由を必ず教員に書面をもって速やかに報告すること。		
13. オフィスアワー	各教員から周知する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション		
2～14. テーマ【学習の目標】【学習の内容】【学習する上での留意点】	本授業では、主に附属臨床心理相談室のインテークカンファレンスや、附属臨床心理相談室で受講生が担当している心理面接や心理検査のケース報告を行い、担当教員や受講生と検討していく。 附属臨床心理相談室の実習では、インテーク面接や引継ぎ面接の陪席を行う。ケース担当者になった場合は、面接記録を毎回まとめ、附属臨床相談室のスーパーバイザーからスーパーヴィジョンを受ける。 ほかの学外実習施設での学びと同様に、附属臨床心理相談室での実習も、心理臨床の専門職としての働き方や組織の一員としての働き方、他職種との協働・連携、仕事を行う上で生じる倫理的問題などに触れながら学びを深める。これらの実践を通じて、臨床的な感覚を養い、心理職としての基本的なスキルを修得する。		
15. テーマ	ふりかえりとまとめ		